

平成 19 年度宮前区区民会議・企画部会（第 4 回）摘録

日 時 平成 19 年 11 月 29 日（木）18 時 00 分～20 時 00 分

場 所 宮前区役所 4 階第 2 会議室

出席者 小林委員長、浅野委員、川西委員、目代委員、渡辺委員、

事務局 田邊総務企画課長、中山企画調整担当主査、東企画調整担当主査、成沢職員

1．開会・事務連絡（事務局）

事務局から事務連絡

- ・ 会議の情報公開について
- ・ 本日の議題について

部会長あいさつ

2．議事

（1）区民会議審議結果の報告について

事務局から資料 1 に基づき説明があった。前回からの主な変更点は以下のとおり。

- ・ （表紙）キャッチフレーズの「～みんなで助け合う コミュニティ豊かなまちへ（提言）～」を入れた。
- ・ （2 頁）明日のコミュニティ部会の具体的な手法（取組）の例の 2 番目に、第 3 回全体会での松井委員の意見、「情報カレンダー」を取り入れた。
- ・ （6 頁）「全体会での意見など」の欄に、第 3 回全体会での亀ヶ谷委員の意見、家庭での防災会議の推進を入れた。
- ・ （8 頁）新しいデータとして、全国版のデータではなく宮前区のデータが入った。

意見交換

まとめの仕方等について

浅野委員 全体会での意見を付け加えていただいたのは結構だと思います。

川西委員 全体の仕立てについて、「他部会の議論との関係」という欄があるが、その内容について、今後どのような扱いになるのか明確にしたほうが良い。どちらも他部会に投げっ放しという印象がある。例えば注釈で、「進捗状況の報告を進める中で詰めていく」などの表現をしてはどうか。

浅野委員 明日のコミュニティ部会ではこども部会、高齢者福祉部会など、今は存在しない部会に託している項目もあるが、良いのか？

川西委員 例えば地域防災でいえば、「避難所運営会議が平成 20 年度からに本格的に動き出すので、その動きを踏まえて進める」という注釈が必要だと思います。

目代委員 高齢者部会もこども部会も今は部会としては存在しないので、どういう扱いになるのか。やはり文言は入れておいたほうが、今後振り返るときにもわかりやすいと思います。

渡辺委員 「他部会との議論との関係」という表現がそもそもわかりにくい。

小林委員長 今後も引き続き、関連しながら進めていく事柄をどう表現するのか、ということです。

川西委員 例えば、「ご近所サークルの促進」など、過去の部会から提案されて、現在動いている取組を通じて活性化される、という表現をしてはどうか。

地域防災では、小規模な単位をうたっているが、実際に今自主防災が 20 年度を目指して動いていることが資料からは読み取ることができない。

サブタイトルについて

- 川西委員** 「小単位」のコミュニティ、身近な小さい単位で積み重ねようとしている点を表現したい。
- 浅野委員** コミュニティを上に行につけてはどうか。みんなで助け合うコミュニティ 豊かなまちへ
- 川西委員** コミュニティが主語になってしまっては困る。本位は「みんなが」がという所ではないか。
- 浅野委員** 「みんなで」ではなくて、「みんなが」にしてはどうか。
- 事務局** 地域防災と明日のコミュニティの両方の要素を盛り込みたい。
- 浅野委員** 例えば「みんなが主役」はどうか。参加するだけで、お客さんじゃだめということ。
- 目代委員** 子育てフェスタでは「つながろう」という表現を使っている。少し頑張らなきゃというイメージではなく、やさしいイメージを出したい。「つながる」という言葉のやさしいイメージが好きだ。
- 事務局** 地域防災も明日のコミュニティも共通している、もっと小地域でということを表現したい。
- 参考だが、これまではの提言書のサブタイトルは、その1が「地域みんなで見守り育むまちへ」、その2が「一人一人が担い手となるまちへ」だった。
- 浅野委員** 「コミュニティ豊か」という表現がちょっとイメージしにくい。
- 小林委員長** 身近な小さいコミュニティがたくさんあるまちにしたいという意味でしょう。
- 浅野委員** そのイメージに少し行きにくいように思います。

その後も意見がいくつか出た結果

「みんなで助け合う コミュニティあふれるまちへ」に決定した。

明日のコミュニティ部会の提案：「地域のたまり場」の創出について

- 浅野委員** 町内会館などは地域の拠点に入ってこないのか。その活用も書いて良いのではないか。
- 小林委員長** 自治会館が無い地域もある。申し込めば使えるようになっているのでしょうか？
- 渡辺委員** 神社の社務所などを、借りている例も多くあります。私の地域もそうだ。マンションの自治会の部屋などももっと使えると良いと思います。
- 浅野委員** 地域のたまり場になりうる場所は、身近にまだまだあるのではないか。
- 川西委員** 記載のある自宅開放より、マンションや自治会館の利用の方が可能性がありそうだ。
- 小林委員長** 特別養護老人ホームなども交渉すれば、施設開放してくれる所がある。
- 浅野委員** まちづくり協議会で、市民活動で使える施設の情報を整理してまとめようという話が出ている。学校施設関連では、色々な目的で使えるのは現在のところ、土橋小くらいだ。他では使い道が限定されていることが多い。
- 川西委員** こども文化センターは施設目的が「教育」となっていることで、利用に縛りが多い。
- 浅野委員** 指定管理者への委託の際に、条件にはいっているかどうか問題になることも多いようです。
- 渡辺委員** 老人いこいの家などは、すでにたまり場として使われている。こうした既存の施設についても記述を入れてよいのではないか。
- 目代委員** 医師会の休日診療所の上が使えないかという話があった。医師会に委託されているので、医師会の事務局に申し込んでOKが得られれば、利用可能と聞いた。
- 浅野委員** 歯科医師会で借りたことがある。使用料が決められおり、当日に支払った。住み込みの管理人がおり、夜 10 時近くまで講習会で使ったことがある。

事務局 場所や団体によって扱いが違うが、基本的には医師会がOKすればと良いと聞いている。公的な利用についてはよりOKがしやすい。委員長や区民会議の名前で一度当たって頂くのが良いだろう。

川西委員 「地域主体による」という言葉はどこにかかるとか。「推進」なのか「広場」なのか。いらぬのではないかと。

小林委員長 広場と空き店舗だけでなく、いろいろな施設や場所の可能性を示したい。

事務局 A3の方では「地域主体による」という言葉を削除。本文中に町内会館等の利用についても、詳しく記載するという事で良いでしょうか。

一同 良いと思います。

浅野委員 空き店舗の利用には、賃貸料が発生してくるが、その辺りをどう考えるのか。

事務局 商店街と連携した事業を現在検討しているが、空き店舗の利用は難しい面がある。非営業時間や休業日の利用、商店街が持っている会議室の利用なども含めて、検討を進めたい。

目代委員 店舗や商店街に人が集まってくれば、お客さんが増えることにつながり、商店街にとってもメリットがある。うまく活性化につながるようなくみがつくと良い。

小林委員長 スーパーなども会議室を持っている。住民が頼めば貸してくれるところもある。

浅野委員 空き店舗という言葉のイメージがどうも良くない。初めてみた人がどう感じるか気になる。

小林委員長 借り際の最低限の決まり、例えば必ず掃除をする、飲食はしないなど決めておいて、その条件で会社の会議室、店舗の会議室などに当たっていったらどうか。

浅野委員 話している中では、いろいろな場所が挙げられるが、実際にそこを借りるには、地域を地道に周って交渉するローラー作戦が必要だ。

小林委員長 交渉の際に行政も絡んでいただければ、安心される方も多く、説得がしやすくなると思う。

事務局 商店街との連携については、商店街の会合に参加し、場所の検討の願いを既にしてしています。

川西委員 具体策が載れば良いと思うが、部会で検討していない内容まで付加することはできない。

まちづくり協議会から利用可能な場所の照会が先日あり、一つ紹介しようとしたのですが、オーナーが、「今はまだ、直接顔見知りの人にしか情報公開しない」という事だった。信頼関係がないと、なかなか難しい部分がある。

小林委員長 その為にもルールをきちんと作ることが重要だと思います。

町会・自治会・マンション等の集会場という表現で、追記することを確認。

地域防災部会からの提案について

川西委員 部会メンバーからは、もう一度くらい集まって、特に「みんなでやろう防災対策」の記載内容について、もう少し詰めたいという話が出ていました。

事務局 部会や区民会議という形ではなく、実際の取組の中で進めるという考えも出ていました。

川西委員 実際に動き出せるのであれば、その方が良いと思います。丸の内丸善で、来年の防災カレンダーが結構売れているそうです。日めくりで毎日、防災の心構えなどのワンフレーズが入っているそうです。手に入れたいと思っています。参考にもなるかもしれません。

区長への提言の提出について

日程調整の結果、12月4日(火)18:00と決定した。

(2) 第1期区民会議の総括について

事務局から資料2に基づいて報告書の校正案が提示され、意見交換した。

報告書の表現、構成等について

小林委員長 総括報告書はどのような形で提出、配布されるのでしょうか？

事務局 第4回の区民会議で提示、確認をして、その後区長に報告していただくという形を取りたい。

浅野委員 第4章の内容、引継ぎのための部分の内容が重要になりそうだ。

事務局 事務局としては、第2期の最初の説明にそのまま使えるものにしたいと考えています。

川西委員 章立ては良いと思います。宮前区らしさを表現していきたい。

第1~3章では、提言提出が最も早かったということだけでなく、課題の抽出や優先順位づけなどみんなで行なったプロセスについても触れる。どこの区の区民会議でも、地域課題を見つけ、政策提言を行なうというプロセスは同じなので、その中で、部会の開催を数多く重ねたこと、議長がリーダーシップを発揮したこと、協働推進事業につながったことなども表現したい。

第2章では、部会の立上げまでのプロセスもわかりやすく表現したい。

第4章は、例えば区民会議に参加してというタイトルで、良かった点と、次に引き継ぎたい事柄の2つに分けて記述しないと、収集がつかないのではないかと。

目代委員 第2章で、今後も取組が協働で続いていくということをしっかり記述したい。

渡辺委員 区民会議スタートの時点では、どのように進めていくのかわからず不安だったのですが、勉強会など非公開で開催したことで、非常にその後への弾みがついたと感じている。そのあたりにも触れていきたい。また、部会の掲載順番が章によって違うので、統一する。

小林委員長 読む気が起らないような分厚い報告書は避けたい。見易く、必要なことだけうまく強調し、簡単にできるところはシンプルに、ポイントを伝えることを意識して作りたい。

第4章については、川西さんのおっしゃった二点に絞って、各委員に意見を求め、集約・整理して申し送りたい。討論も必要に応じて行ない、申し送り事項がぼやけることのないようにしたい。

川西委員 総括報告書は誰に対して出すものなのか？行政や区民会議の内部なのか、一般市民の目にも触れるようなものなのか。

事務局 もちろん多くの市民の目にも触れるものを想定しています。

浅野委員 宮前区民会議が取り上げたテーマは、宮前区でなくても、どこにでもあるテーマと言われたことがあり、少し気になっています。解決策については独自の物が出ていると思うが、どこにでもあるテーマを、なぜ取り上げたのかという過程を示したい。

川西委員 確かに子育て支援や高齢者福祉などという言葉はすごく一般的で、それだけでは宮前区らしさは出てこない。しかし、課題の抽出や整理からきちんと広く捉えて行なった結果であり、全て「宮前区の子育て支援」「宮前区の高齢者福祉」など「宮前区の」という前置詞がつくものだ。

市議との話し合いをしたことにも一行で良いので、触れるべきだ。市民の目にも触れるものであれば、組織図や、意見の集約の流れなど、全体のしくみがわかるような資料も載せたい。読まれた方に「なるほど、区民会議に取り上げられるとこういう形で事業や施策に反映されるんだ」ということが伝わることが重要だと思います。

事務局 要点を抑えたダイジェスト版と詳細版と別冊でつくることも考えています。

小林委員 高齢者部会でも、鈴木委員の活動を広めていく動きがしやすくなるようなことを具体的に進めていく必要があります。

川西委員 鈴木委員や福本委員が地域で行っている活動については、もっと宣伝して良いと思います。総括報告書にもトピックスとして盛り込んではどうでしょうか。

小林委員 これから活動しようという人の参考にもなる。また、実際に鈴木委員に話に来てもらいたい人はどこに問い合わせたら良いかなどもはっきり記載すると良いと思います。

川西委員 読んですぐ使えるようなものにしたい。

事務局 第4章の記述内容については、先ほどの2点に絞り、年内に書式で委員さんへの投げかけを行うということでどうでしょうか。

小林委員長 良いと思います。なるべく箇条書きで書いていただけるような形が良いと思います。

区民会議のあり方等について

浅野委員 今更こんなことを言うと怒られてしまうかもしれませんが、なぜ区民会議をつくらなくてはいけなかったのか、という疑問が実はまだうまく消化できていない。既存の様々な会議や活動をまとめる考え方もあったのではないか。既存の団体と区民会議の関係の整理もまだ充分でないと感じる。

川西委員 今回の区民会議で行政と市民が一体で動き始めたということはすごく感じているが、自治の仕組みとして、区民が考える課題を吸い上げる方法論や機能が、まだ不十分だ。行政の各所管には市民の声がかなり届いているのだと思うが、それを横断的に集約するしくみがまだない。各団体で取り組んでいる地域課題を区民会議にあげてくれと言われても、すごく遠い感じがする。

目代委員 これまで同じ様なテーマで、自分達で活動してきたのに、どう考えていいかわからないという方もいる。

川西委員 既存の活動を後押しするような形、区民会議で取り上げられることにより、さらに弾みがつく、認知されるということになれば良い。

渡辺委員 参与の方の力がもっと発揮されていくような形もつくっていかねばならない。

小林委員長 これまで区づくりプランや都市マスタープランなど様々な計画が市民参加で行なわれてきたが、提言だけで言い放しだった一面があったように思う。今回の区民会議では提言後の実行のところまで少しずつ関わってこられたと感じている。

浅野委員 まちづくり協議会は区作りプランの推進・実現のためにつくられた組織だが、なかなか全てには手がまわらず、出来るところからやっているの、団体として何をやっているかわからなかったこともあった。その役割は段々、中間支援組織として既存の活動をつないでいく役割ということになってきています。

区民会議と既存の団体との関係がはっきりしないままスタートしてしまったことが問題だ。まちづくり協議会から他に移った方が、どんどん同じ様な組織ができていて、まちづくり協議会は下手するとつぶれると心配していた時期がありました。福祉のまちづくり協議会など、様々な協議会とテーマが重なっている部分もたくさんある。区民会議でも地域課題を取り上げるといっても、全体を捉えているだけで、此处でとりあげるテーマは結局同じになるのではないか、区民会議のメンバーも、もっと多くてもいいのではないか、など考えてしまう。

川西委員 これまでの経験を踏まえて、区民会議の位置づけを再度考えてみる必要があるかもしれない。区民会議委員は様々な団体からも出ていますが、それぞれの出身母体に提案がどう反映したかという面ではちょっと薄かったと考えています。

目代委員 区民会議委員の代表性について微妙なところがあると感じています。松本委員も個人的な意見が団体の総意としてとられてしまっていないのか、繰り返し気にしておられました。

川西委員 鈴木恵子委員のご近所サークルなどの活動は、区民会議の前では、そう知られていなかった。こうした良い活動を、区民会議を通じてみんなが認識し、重要だと共通認識を持ったことも大きな価

値がある。行政も入っていることで、今後の活動や自治推進にも追い風になっている。

目代委員 地域防災部会についても、今後地域振興課と一緒に動いていくことでどのような活動がなされていくのか、期待しています。

川西委員 本来一つひとつの活動がしっかりしていて、連合会で団体の意見や相違を吸い上げるしくみができていれば、中間組織というものは要らないはずだ。ただ現実はそうっていないので、みんなでやろうという形だと思う。

小林委員長 まちづくり協議会と区民会議の関係は、どちらが上か下ということではなくて、まちづくり協議会からの議論も取り上げて進めているということだと思います。

浅野委員 関係に問題があるというわけではありません。うまく表現できないのですが、区民会議で取り上げられると問題解決してしまうというのも悔しいかなと思います。(笑)

小林委員長 区民会議の成果がどんどん出てくるようになれば、市議員との関係が問題になってくると思います。

川西委員 市民活動団体のネットワークと簡単にゆうが、実際にはすごく難しい。それぞれの団体は、一つのテーマに絞って一生懸命やっているだけで手一杯なことが多い。

浅野委員 まちづくり協議会では中間支援組織として、既存の団体に対するアドバイスができるような情報蓄積、提供が出来る窓口を繕うという動きが出てきつつあります。

川西委員 それには市民館との連携が必須だと思います。

浅野委員 まちづくり学級というのを様々なテーマを取り上げて開催している。市民館で元はやっていのが、使えなくなり区役所に移ってやっている。市民館とお互いにうまく利用しながら、進めていきたい。また今後は防災について、例えば防災フェアなど、まちづくり協議会と地域防災部会の連携がより必要だと考えています。

川西委員 市民活動団体はある程度テーマが特化されていくとやめられなくなる。次から次へ新しいテーマということは実際には不可能に近く、どうしても固定化してくる。やはりそういうときに、団体を繋いだり、教育したり、アドバイスする中間支援的な役割、コーディネーターが必要だと思います。

区民会議全体を振り返ると、宮前区は本当に行政の方がよくやっていただいた。毎月の庁内会議で進捗状況の確認を行い、積極的に推進いただいたことを感謝している。

目代委員 横浜市では地区センターが非常に身近な範囲、徒歩圏内にあり、横浜市在住の親戚はこどもを連れて日常的に利用している。いつもすごく賑わっており、居場所づくりも多世代交流も地区センターで自然にできている。駐車場もある。川崎市にも同じような施設があったら、本当に良いと思う。

川西委員 今から川崎市内で同じような施設をつくるのはいろいろな意味で非常に難しい。こども文化センターを機能転換するという方法はあるかもしれない。

(3) 区民会議フォーラムについて

事務局 3月1日・2日に土橋小学校でかわさき自治創造フォーラムが開催される。区民会議フォーラムを自治推進委員会が行なう区民会議関連のコマに入れ込む案もあったが、枠が2時間しかなく、難しいということだった。自治推進委員会は1日の13~15時の枠で、最初の30分が自治推進委員会の取組の報告、その後各区の区民会議の情報交換ということで検討しているそうだ。区民会議委員には有志で参加していただきたいという考え方のようで、年末あたりに照会がくると思われる。

区民会議フォーラム自治推進フォーラムの枠の中でやるのか、別日程・会場で行なうのか、検討中である。かわさき市民自治創造フォーラムで自治推進委員会の枠の後、15~17時の枠が確保できれ

ば、他区の区民会議関係者などがたくさん来てくれるのではないかと考えている。

川西委員 1日は全市の地域教育会議の大交流会があり、丸一日つぶれるので、申し訳ありませんが参加することができません。

浅野委員 1日の15時以降のプログラムについても、他のプログラムが並行でいくつか入っている。もし合同開催のような形にするのであれば、早く決めないと間に合わないと、本日欠席の永野委員も気にしていた。

事務局 1日は午後開会なので、その前（午前中）に開催するというのも少し難しい状況がある。

小林委員長 区民会議委員の情報交換は一度高津でもやっている。1時間半でどれだけの話が出てくるのか。先日も、何区か区民会議の委員長が集まって話したことがあったが、たいした会合にはならなかったという感想がある。

浅野委員 3月1日に開催しても、他の企画と並行になるので、人が集まるとは限らないのではないかな。

小林委員長 昨年のように、団塊世代への情報発信と合わせてやってはどうかな。

事務局 今年のシニアの事業は2月11日に予定している。市民館とタイアップして、その後にポスターセッションなども企画しており、そこに合わせるのも難しい状況がある。

小林委員長 成年後見人の説明会と合わせるなどはどうでしょうか？

事務局 いろいろなバリエーションがある。今回提案のある明日のコミュニティと地域防災に関連した講演会などを合わせることは考えられ、より効果的なのではないかな。

浅野委員 人を集めるには、防災関係の講演会が良いのではないかな。

事務局 講師の方に提案を見てもらって、意見などもいただければ、さらに良いかもしれません。

川西委員 細川さんに来てもらえればとても良い。話も非常に上手で惹き付ける。かわさき自治創造フォーラムの会場の土橋小学校は、会場は立派だが、交通の便が悪く、車で行けず、駅から距離があるので、嫌がる方もいる。

小林委員長 防災関係の講演会と合わせて、別に開催する方がよいのではないかな？

事務局 かわさき市民自治創造フォーラムとの合同開催を、今多少無理を言いながら、画策しているところなので、少なくとも別開催にするかどうかは本日決めていただきたい。

浅野委員 かわさき市民自治創造フォーラムの中での開催は確かに人が集まる可能性はあるが、同時並行の他の企画に流れる可能性もある。

事務局 他区の区民会議の委員の方々は間違いなく参加しやすい形になると思いますが、宮前区民がどうかはわかりません。

小林委員長 一番来て頂きたいのは、宮前区民だ。

事務局 別日程で開催するのであれば、3月22日（土）・23日（日）あたりは会場を抑えている。

小林委員長 それでは3月22日（土）で別に開催する。防災関係の講演会などとの同時開催を企画するというのでどうでしょうか？

川西委員 宮前区民を集めるという意味でも、それが一番良い。

一同賛成

川西委員 大変忙しく引っ張り尻の方ですが、ぜひ細川さんに講演会をお願いできればベストだ。

（４）その他

次回企画部会日程を12月19日（水）議題は第4章の扱い、フォーラムの内容等についてと決定した。